

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県有田市

自治体名：和歌山県有田市

担当課名：教育総務課

電話番号：0737-22-3758

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	36.92km ²
人口	25,172人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	610人
部活動数	23部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	作成途中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

令和6年度から市内中学校統合により市内1中学校となったことで、現存する各部活動の所属人数は増加した。しかしながら、今後の生徒数の見通しでは、2036年におおよそ半分程度の生徒数の減少が見込まれる。近年の出生数を鑑みると、その後も減少することは想像ができる。また、これまでのアンケートの実施で見えてきた教職員の部活動への多様な考え方から、設置している部活動を学校単位で維持することが難しくなると考えられる。

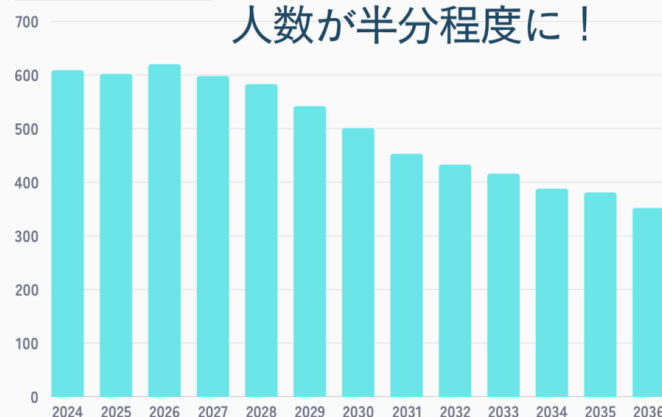
有田市として「多様なスポーツ活動や文化的活動に取り組みたい。」や「よりひとつの競技の力

を極めたい。」というような参加者が主役になる活動を実施するためには、アンケート等で実態を把握し、種目のニーズや受益者負担の考え方、送迎等の負担に関する不安などを丁寧に読み取り、必要な時期が訪れるまでに、どのような体制づくりに着手すべきかを検討を進める。

最後に、希望する教職員が地域スポーツクラブの指導者としても活躍をしてもらえるように、資格を必要とする者への資格取得の促進を行っていくことや、安心安全な指導のあり方について研修の機会を設けることが必要であると考えている。

なぜ必要？

10年先には中学生の人数が半分程度に！



【課題】

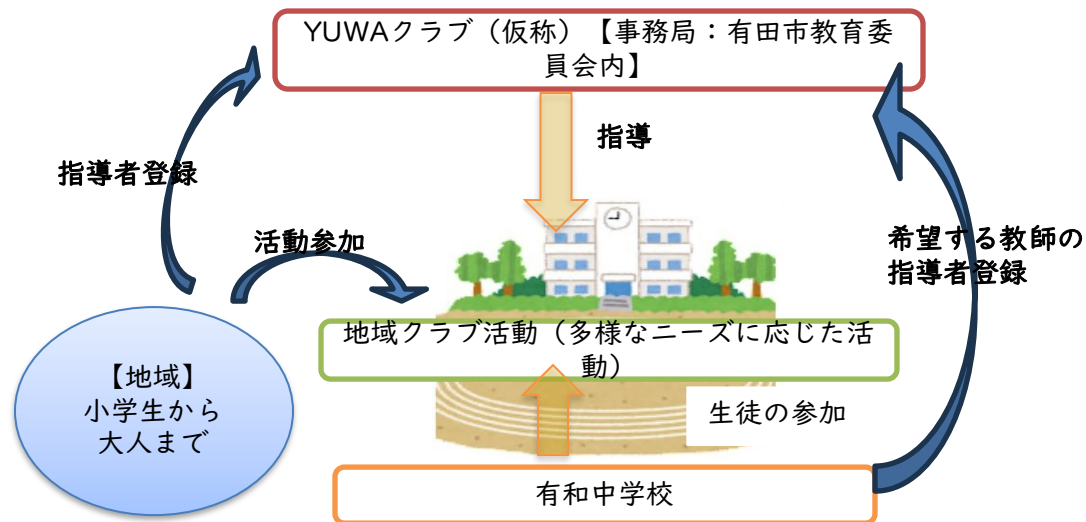
現在の有田市の出生数を考慮すると、10年先には学校単位での部活動維持は難しくなる。

出典：部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせNo.1「有和クラブについて」

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育総務課・・・部活動改革の事務局、学校との連携及び調整
- ・生涯学習課・・・教育総務課との連携

◎首長部局

- ・経営企画課・・・予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年7月	有和クラブ事業説明
令和6年10月	有和クラブ実施
令和6年10月	生徒アンケート実施
令和6年11月	つくば市教育委員会とオンライン交流
令和7年1月	広報発信
令和7年2月	検討会議実施
令和7年2月	兵庫県部活動地域移行シンポジウム参加

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	1校	実施した地域クラブ総数	4クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1クラブ（1部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		3クラブ
全体の指導者数	9人	全体の運営スタッフ数	10人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
有和クラブ	教育委員会運営任意団体	ホッケー	週1回	休日	中学1年生 中学2年生	令和6年 10月から 令和7年2月	有和中学校	2人	2	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動
		軟式野球（新）	週1回	休日	中学1年生 中学2年生	令和6年 10月から 令和7年2月	有和中学校	3人	3	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動
		剣道（新）	週1回	休日	中学1年生 中学2年生 中学3年生	令和6年 10月から 令和7年2月	有和中学校	2人	2	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動
		柔道（新）	週1回	休日	中学1年生 中学2年生 中学3年生	令和6年 11月から 令和7年2月	有和中学校	2人	2	練習試合時の移動代徴収	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績 ●サッカー教室

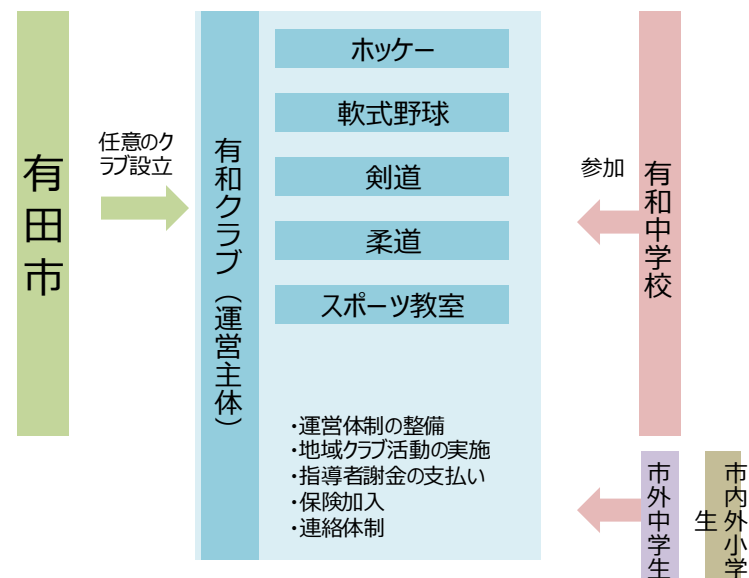
2.実証内容と成果

主な取組例

●有和クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ホッケー、軟式野球、剣道、柔道
運営団体名	有和クラブ
期間と日数	ホッケー：10月5日～2月15日 月4回程度 野球：10月6日～2月16日 月4回程度 剣道：10月27日～2月16日 月4回程度 柔道：11月3日～2月16日 月4回程度
指導者の主な属性	教員、地域指導者（市外在住2名）
活動場所	有田市立有和中学校
主な移動手段	自転車、公共交通
1人あたりの参加会費等（年額）	練習試合等での移動に係る交通費負担
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●事務局（有田市教育委員会）2名

役割：学校との連絡調整、保険加入・諸謝金等の支払い事務等を行う

●指導者 9名

役割：技術指導、保護者対応等の活動に直接関する実務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

- 部活動指導員が主として指導を務めていた部活動（ホッケー）の休日の移行を行った。
- より競技性を極めたいという思いを持つ子へ、対象の種目を開設し運動機会を設けた。
- アンケートの結果からサッカー教室を開催した。

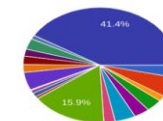
活動の詳細

参加人数	84人、サッカー教室18名	指導者数	9人、サッカー教室3講師
属性	教員、地域指導者		
具体的な内容	①ホッケー部の休日の地域移行を試行 ②野球、剣道、柔道において希望する者への練習機会を設定 ③アンケート結果よりサッカー教室を開催		
子供の声	①部活動指導員と同じ指導者が、指導することで困った事が「ある（12.5%）、ない（87.5%）」であった。 ②よりたくさんの練習ができたことに満足感を示す者が多かった（大変満足52.8%、満足30.6%、普通16.7%、不満及び大変不満0%） ③実施が直近のため感想をとれていない。今後も継続実施の予定のため、その際にアンケートを実施する予定		
関係者の声	①学校教員で兼務の者は、自分が休んでも任せられるので助かるとの意見。地域指導者は、生徒対応に悩みを抱えていたため、事務局が助言を実施。 ②より活動を希望する者への機会提供ができたことが有り難い。新たな指導者の加入による負担軽減は助かった。 ③同世代のサッカーをしている子との交流機会が良いと感じた。		
運営経費	【①、②】 指導者謝金1,600円／1時間 （費用弁償別途支給） 保険／選手800円／指導者1,850円 【③】 サッカー教室講師代 10,500円×3名 保険代 2,000円		

他に挑戦してみたい活動

学校にある部活動で、やってみたい部活動はありますか。
※学校の部活動に所属している（していた）人は、その部活動以外で選択をしてください。

459件の回答



陸上競技	16
軟式野球	26
ソフトボール	7
バレーボール	16
バスケットボール	15
ソフトテニス	20
卓球	11
バドミントン	73
体操	3
柔道	5
剣道	4
相撲	0
空手道	1
サッカー	23
水泳	10
ホッケー	11
音楽部	9
美術部	14
書道部	5
特になし	190

出典：部活動地域連携・移行に関する取組の
お知らせNo. 2「アンケート結果について」

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

参加した中学生84人を対象としたアンケートを実施（回答率90%）した結果、ホッケーにおいては、部活動指導員と同じ指導者が休日の指導することで困った事が「ある（10%）、ない（90%）」であった。「ある」という回答では、活動内でのめめ事に対する悩みがあり、このような事態への対応は課題として捉えている。野球、剣道、柔道の活動は、よりたくさんの練習ができたことに満足感を示す者が多かった（大変満足68.2%、満足22.7%、普通9.1%、不満及び大変不満0%）。野球においては、地域指導者が指導に関わることで、「いつもと違うことを聞いた」や「守備が上手くなった」などの肯定的な意見が聞けた。また、活動人数の多い休日を主に活動するため、平日の活動日を3日にすることで、時間外勤務の削減に繋がった。

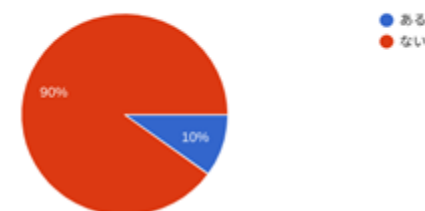
生徒向けアンケートを実施することで、今の中学生たちの生の声を聞くことができた。また、その結果よりサッカー教室を開催したことで、自チームの選手以外との関わりや、外部講師の意見を聞くことができた。

今後の課題と対応方針

今年度は、活動開始が遅れた分、予定していた活動まで至っていないことが大きな課題を残している。次年度へ向け、4月以降すぐに活動に取り組めるように、今年度参加してくれている種目関係者との協議を実施し、受益者負担を含めた方向性を検討したい。また、アンケートから把握できた多様なスポーツへの希望も含め、中学生だけでなく幅広い年代が参加で

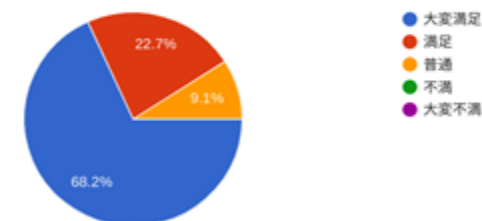
平日の部活動と同じ部活動指導員で、休日の部活動を地域移行のかたちで取り組んでもらいましたが、困ったことはありますか。

10件の回答



よりたくさんの練習をするために、休養日も練習できる環境は、あなたにとって満足できる環境になりましたか。

66件の回答



実証事業参加者へのアンケートから

きる活動を展開するため、各種団体との交渉を進めるとともに、当活動の趣旨を地域企業等へ広報し、賛同いただけたところからの支援を募る体制づくりに着手する。また、指導者の確保の観点からも地域全体への広報も引き続き行いながら、教職員を含めて一定の指導者へ負担がかかる体制からの脱却できる体制を整えたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

今年度は、初年度もあり実質の受益者負担を抑えるようにし、練習試合などの対外への交通費について負担をしてもらった。生徒アンケートの実施により、受益者負担への生徒の考えを問うことができた。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

現在は事務局を教育委員会内に置いているため、実質の経費は発生していない。今後、既存団体もしくは新設の団体への委託を行う際には、P C 機器の購入から始まって、各種費用の発生は見込まれる。

■ランニングコストの分析

- ・指導者謝金 1,600円／1 時間
 - ・事務局人件費（※現在、教育委員会が事務教のため経費無し）
 - ・消耗品費
- ※基本、既存の部活動の用具を借りての活動を行っている。次年度に必要な経費を算出する予定

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

今年度の設置部活動数や部活動加入人数をもとに、必要な人件費（指導者謝金）や、活動に対する受益者負担額を試算した。指導者2名が祝休日（R 7年度）に全ての部活動で指導した場合に、およその交通費を含めると約1,600万円の人件費が必要になる。また、月額500円を600名の生徒から徴収すると、360万円の運営費が生まれる。

【指導者謝金】					
部活数	顧問	謝金／時	時間	祝休日	謝金予想
23	2	1600	3	66	14,572,800 円
23	3	1600	3	66	21,859,200 円
23	4	1600	3	66	29,145,600 円
【指導者交通費】					
部活数	顧問	交通費／日	祝休日	交通費予想	
23	2	500	66	1,518,000 円	
23	3	500	66	2,277,000 円	
23	4	500	66	3,036,000 円	

収支バランス

収支のバランスは、今年度の受益者負担（月謝）は求めずに実施を行った。指導者への人件費を全て公費で補うか、左記のように受益者負担の一部も含めていくか、次年度の以降の取組で適切なバランスの検討を行っていく。

【受益者負担】							
全ての生徒が参画できる活動の場にし、PTA会費として毎月徴収							
会費	500 円／月	×	12 ヶ月	¥ 6,000 円／人			
会費	1000 円／月	×	12 ヶ月	¥ 12,000 円／人			
生徒数	600 人	×	¥ 6,000 円／人／年		¥ 3,600,000 円／年		
生徒数	600 人	×	¥ 12,000 円／人／年		¥ 7,200,000 円／年		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

生徒向けアンケートから、下記に示すような意見を得ることができた。現在、市内に設置する1中学校においては、年間2,000円の任意の保護者寄付を各家庭へ依頼している形で、それ以外、毎月徴収しているものは存在

参加費用について

- 参加費用は嫌、かからない方が良く、あまりいいと思わない、かかるなら辞めるかも、おわってる、残念
- 参加費がいるなら移行してほしくない、行きたくない
- △まだ、わからない。
- △費用が高すぎると参加したくない気持ちもあるし、任されたのならやりとげたいから、参加費用を出すかもしれないから今は分からない。
- △活動内容による
- 好きでもないのに部活に何らかの理由で入っている子はあまりよく思わなさそう。
- 毎回、参加費用が必要となると行きたくてもいけないケースがあるかもしれない。
- 今までかからなかったのに地域移行することで、費用が発生するのは納得できない。
- 少し参加しずらくなると思う
- 部活動を趣味として楽しみたい人にとっては不都合だと思う。
- かってに地域移行して参加費用が発生するのはとても勝手なことだと思う。

今後の課題と対応方針

年間の活動の中で必要な経費を算出し、その活動に値する受益者負担についての検討が必要である。今年度は、生徒にのみアンケートを実施しているが、保護者へのアンケートも実施し、検討する資料の収集に努める。

また、教員の勤務時間という点で議論をすると、生徒数の減少が見込まれる10年先よりも早い段階で、現状の部活動のかたちを維持することが、

しない。そのため、個人の道具費、練習試合等での遠征にかかる交通費など、その都度、発生する費用負担のみで活動を行っているため、「部活動には、お金がかからない」という思いが強いのがよくわかった。

参加費用について

- 税金で払うべきだと思います
- 値段がどのくらい気になる
- 学校では参加費用がなかったのに対し、費用が発生することは少し不安がある。
- なんでお金がかかってまで地域移行するのかわからない
- 貧乏にはきつい
- △あってもしかたないと思うが、多かつたらちょっとと思う
- △費用が発生するならいくことができない。でも、その分未経験の人に教えてもらうよりはうまく思う。
- 大まかな金額だけ知りたい。
- 参加費用が発生するのだと、少し参加人数が減る可能性がある。また、親の意見も分らない。
- 親に負担がかかる
- 金額によるけれども、やり方があまり好きではないところに高いお金は使いたくない。
- 部活動ではかからなかった費用が掛かるのは嫌だ
- 市や県、国から費用を出してはくれないのか
- 地域移行が強制だったら費用が発生するのは少し不満に思う。

現状の部活動はお金がかかっていない。
というところでの声大きい・・・

実証事業参加者へのアンケートから

難しくなることも踏まえた上での丁寧な説明を重ね、活動維持のために必要な受益者負担への理解に繋げていきたい。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

事業開始が10月からになったことにより計画を大幅に変更した。

日常的に部活動指導員が部活動の指導を行っているホッケー部について、休日の活動をクラブチームの活動として実施した。指導者は、部活動指導員と部活顧問が登録し、指導を行った。他、地域のホッケー経験者等への活動の紹介をしつつ、次年度以降の指導者確保へ繋げている。

軟式野球、剣道、柔道については、競技力の向上をより目指したいという生徒のニーズに応じて、希望する生徒が参加できる休日の活動日を設けた。指導者は、教員と地域指導者が登録した。地域の指導者が参画した活動では、参加した生徒から肯定的な声があがっている。

10月に生徒アンケートを実施し、地域移行に対する思いや部活動への思いを把握した。アンケート結果を広報として生徒及び保護者にお知らせした。また、2月に実証事業参加生徒へもアンケートを実施した。2月に検討会議を開催し、学校をはじめ各関係者の意見を交流した。

●成果の評価

ホッケー部の休日の活動をクラブチームとしての形にしたことにより、困り感を抱いた参加者が1名いたが、それ以外は特に困り感を感じていなかった。関わった教員は、クラブチーム化ということで、「自身が携われない日も活動日として設定でき、安心して任せられることが良かった」との感想であった。軟式野球、剣道、柔道では、希望する生徒が参加できる休日の活動日を設けたことに対して、満足する声が9割を超えた。また、一人一人が保険へ加入し活動する中で、急なトラブルへの対応もでき、大きな自己負担を防ぐことができた。

生徒アンケート結果に基づいて地域移行についての情報の発信が足りていないことに気づけた。広報の発信により、中学生及びその保護者、学校関係者等へ現状を周知できたことにより、運営へ興味を示してくれる地域団体も現れた。

●今後に向けて

具体的な推進計画等を地域へ発信し、アンケート回答者が課題意識を持った中での回答ができる環境を作っていきたい。また、多様な生徒のニーズへ応えていくための体制づくりとしては、各種目新たな指導者の確保が必須で、また、活動する人数に対し安全面を考慮した指導者の数を鑑みた予算確保が課題になる。そうした、財政的な課題の洗い出しを含め、持続可能な運営体制の検討を重ねる。

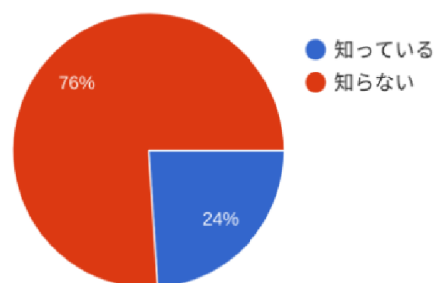
併せて、現在教育委員会が運営しているかたちを地域の団体へ移すかたちを検討し、地域や生徒が主体になって活動する場の設定に繋がられるようにする。

2.実証内容と成果②

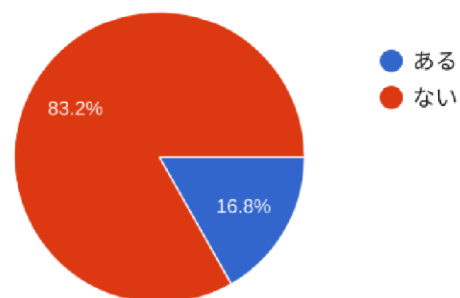
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

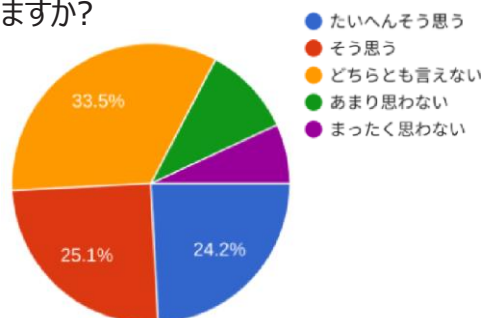
Q.部活動の地域移行について知っていますか？



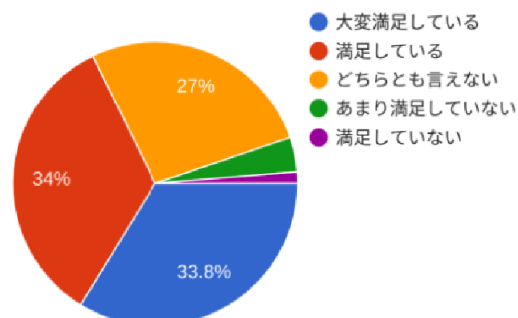
Q.学校の先生だけでなく地域の指導者に教えてもらうことに不安はありますか？



Q.所属する部活動の活動時間や活動日を増やしたり、し合いや発表の機会を増やして、もっと活発に活動したいと思いますか？



Q.現在所属する部活動の活動内容や頻度に満足していますか？



●参加者の声

Q. 今回の実証事業において、部活動の顧問の先生以外の指導者が参加することで良かったことはありますか。

A. 中学2年生

「顧問の先生が教えてくれないことや自分に合ったことを教えてくれたこと」

A. 中学2年生

「クラブ活動における新しい知識を得ることができた。」

A. 中学1年生

「部活動の顧問の先生が普段教えないことを教えてくれた。」

指導者

地域の指導者が主で指導してくれることで、以前のように、自身の予定で、活動を休みにしないといけなくなかったので気持ちが楽になった。

指導者

選手に対する指導者の数が少なくなる活動日もあったので、保険加入だけした上で、ボランティアで指導へ来てくれる方がいたのは助かった。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

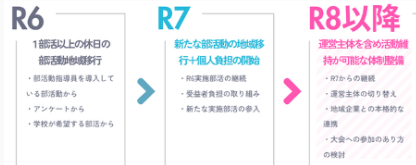
アンケートの結果から、地域移行について知らない生徒が76%であった。そのため、部活動が地域移行された場合に、参加したいかどうかを尋ねても64.7%の生徒が「まだ、わからない」という回答をした。この結果から、当事者である生徒への発信を行うことが必要と考え、定期的に広報すること

とに繋がった。なお、地元の公民館にも配布している。また、広報を見た方から、「いつまでにどうなるのか」という声もいただき、子どもをはじめとする地域の方々が分かりやすい情報の発信が求められている事が把握できた。

部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせ 有和クラブについて

VOL. 1
29 JAN 2025

有田市の中学校部活動の今後を見据えた取組



文部科学省から全国の自治体に、令和5年から令和7年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブへ移行することについて、地域の実情等に即して可能な限り早期の実現を目指すように依頼がなされています。

有田市では、今年より中学校にある部活動の地域連携・地域移行に関する実証事業の実施しており、上記のようなイメージで取組を進めていく計画を立てています。

今回のお知らせでは、「なぜ、取組が必要なのか」「何をやるのか」をお伝えしたいと思います。

また、このことに関する具体的な情報については、「部活動改革ポータルサイト」→学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行（地域移行）に付けて～」
(https://www.mext.go.jp/sports/h_menu/sports/mcatetop01/ist/1372413_00003.htm) をご覧いただけます。

なぜ必要？ 10年先には中学生の人数が半分程度に！



左は、有田市の過去の出生数にもとづいて、今後の中学生の数を算出したグラフです。右側は、中学校に入るまでに市外転出や中学校受入により、上記の予想よりも少ない数になることが考えられます。

今から10年先には、中学生の数が400人未満になることが予想されます。もう少し先にも、今の半分程度になる人数にまで減少することが考えられます。

有田市として、予測されている課題への対応として、部活動の地域移行を進めることが必要と考え、中学生のみなさんの多様な活動の機会を確保したいと考えています。

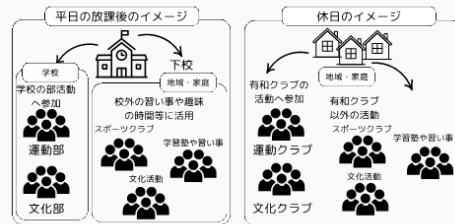
何をやるの？① 指導者の確保をします。

「生徒数の減少」＝「教職員数の減少」です。そのことは、専門性を持つ顧問の先生の数の減少につながります。現在も部活動指導員として外部指導者の導入をしている部活動が数ありますが、地域移行の取組を進める中で、専門性の持つ指導者による指導が、どの活動でも実現できるように学校の先生も含めて協力してもらえ指導者の確保に努めています。



何をやるの？② まずは土日の活動を地域へ展開

まずは、休日の部活動から地域への展開を目指していきます。そのために、有田市教育委員会、有和クラブという団体を今年度創りました。園のよう有和クラブに所属してもらって、現在加入している部活動と同じ活動ができるように整備していきます。



何ができるの？ 地域展開で活動の幅を広げられる

- 部活動を地域へ展開することで、
- ☆「学校の部活動にはない活動の選択肢が広がる」
 - ☆「複数の種目に所属できる」※現在の市域大会は1競技のみの出場になっています。
 - ☆「休日の大会への参加もできる」
 - ☆「積極的に活動したい人は活動にできる、ゆるく活動したい人はゆるくできる選択肢ができる」
 - ☆「どの活動にも専門性のある指導者がいる」
 - ☆「有和中学校以外の中学生も参加できる」
 - ☆「活動の内容により、世代を超えた多様な関わりができる」
- など、今は選べなかった活動の形が想定できます。
- 有田市として、部活動の地域への展開を行うことで、一人ひとりの活動の選択肢や幅を広げ、多様な人間関係を生み出す新しいまちのコミュニティの場となる場所として有和クラブの活動を考えていきたいと思っています。

広報広聴について

広報No.2では、有田市の中学生の皆さんにご協力いただいたアンケートの結果をお知らせします。

部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせ 生徒アンケート結果

VOL. 2
29 JAN 2025

部活動の地域移行に関するアンケート結果

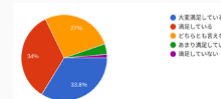
10月に有和中学校生に依頼し、部活動の地域移行に関するアンケートを実施しました。結果、459名（1年生143名、2年生125名、3年生191名）の方から回答をいただくことができました。生徒の皆さんご協力ありがとうございました。アンケートの結果について、下記のように結果を共有させていただきます。

THANK YOU

RESULT① 部活動の満足度 「67.8%が肯定的回答」

「現在所属する部活動の活動内容や頻度」に満足しています（グラフ①）という質問に対して、「大変満足している」が3.3%、「満足している」が34.4%という結果でした。

なお、「もっと活発に活動したい」という思いを持つ人は49.3%（「たいへんそう思う」24.2%、「そう思う」25.1%）という結果になりました。



RESULT② 部活動への思い 多くの人が「好き」

自由記述でしたが、多くの人が「好き」という感情を表現してくれました。理由をまとめると、学年を問わずな仲間や先輩とのつながりなどの「人間関係」や成功したときや作品ができたときの喜びなどの「達成感」、帰りの「野良犬の良き」などにまとめられます。

好きな部活動の理由に関するアンケート結果の円グラフ。好きな部活動（41.4%）と好きな部活動（11.4%）の合計が52.8%です。

RESULT③ 部活動の地域移行の認知度について

今回のアンケートで「地域移行」について「知らない」が76%で圧倒的に認知度が低く、地域移行のイメージがないので「部活動が地域移行された場合、参加したいか」への反応は「まだ、わからない」が64.7%という結果になりました。

RESULT④ 地域移行への不安

地域移行した際の不安を問う質問では、「わからない」や「特になし」が多数を占める中、「活動場所が学校外になった場合の交通問題」や「指導者への不安」、「練習内容が変化する」との不安の声がありました。

指導者への不安の声がある中で「学校の先生だけでなく地域の指導者に教えてもらうことに不安はありませんか」に対しての回答は「ない」が8.3%、2%でした。

RESULT⑤ 地域移行への期待

期待に関しても「特になし」が多かったが、「活動への興味はある」や「地域の人のかわりが増えることへ期待」、「より上手な人と練習できるかもしれない」、「たくさん練習できる」などの声がありました。

なお、活動場所や時間、活動日等の希望に対する質問では、「今と同じ程度」の活動を求める声が多い中で、「休業日」や「自由参加」、「季節ごとの活動時間変更」、「より環境のよい場所」などを望む声もありました。

また、参加費用については「かからない方がよい」が多数でした。

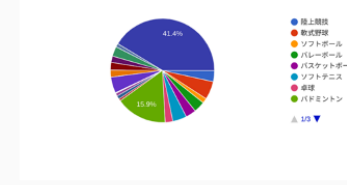


RESULT⑥ 所属部活動以外で挑戦してみたい活動

他に挑戦してみたい活動

学校にある部活動で、やってみたい部活動はありますか。
※学校の部活動に所属している（していた）人は、その部活動以外で選択してください。

459件の回答



RESULT⑦ 学校にない。けど、やってみたい

多くの人が、現在所属する活動以外にも興味を持っている活動があることがわかりました。

すべての意見を実現することはできませんが、できる活動から実現していけるように検討を重ねていきたいと思っています。



NOTICE 部活動の地域移行ってどんなもの？

全国の部活動の地域移行についての取り組みが掲載されているサイトを紹介いたします。

今回のアンケートで興味を持たれた方はご覧ください。

※部活動改革ポータルサイト→学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行（地域移行）に付けて～」
(https://www.mext.go.jp/sports/h_menu/sports/mcatetop01/ist/1372413_00003.htm)



【生徒・保護者向け広報（通信）】

出典:部活動地域連携・移行に関する取組のお知らせ

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ホッケー活動様子】



【剣道活動様子】



【サッカー教室様子】



【野球活動様子】



【柔道活動様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



ステークホルダー

学校、体育協会、スポーツ推進委員
市教委、地域活動団体

経過

令和4年度に実証事業に参加し、当時設置されていた3中学校の協力のもと、教員及び地域関係者に対する講演会を開催した。また、中学校長と本件に関する連絡を継続的に実施。令和5年度に検討委員会を開催し、現状の報告を行い、学校や関係団体と意見交流を実施。令和6年度、市内1中学校に統合されたことにより、事業開始は遅れたが、必要性を学校へ説明した上で開始した。

実施内容

10月からは市内1中学校の1部活動において休日の部活動をクラブチームとしての活動に移行した。また、より活発な活動を望む生徒のニーズに応えるための環境として、3競技クラブを設置し活動の機会を設けた。2月には、アンケートの結果から、サッカーへの興味がある生徒が多かったため、サッカー教室を開催した。

実施にあたって生じた課題

1 中学校に統合されたことにより、人数の減少による活動維持困難という課題がなくなったことにより、以前よりも課題意識が薄まっている。しかしながら、2年連続で実施した教員アンケートにおいては、地域移行が必要と感じている教員が一定数いることから、開始時期を遅らせながら慎重に説明を重ねて事業を開始した。指導者の確保を行うことを目指し該当する協議関係者への声かけを行ったが、指導者同士の考え方にも差があるため、合意に至らない状況であって、今も確保へ向けての検討を行っている。

事務局を行政で持つことのメリット（管理面）もあるが、会計面ではデメリット（支払い関係、予算流用等）があることに直面した。

今後の展開

令和7年4月以降も活動を継続できるチームから継続するとともに、新たな競技クラブの参入、子どもが主体になる新しい活動を展開していきたい。また、受け皿となる団体との令和8年度以降を見据えた体制づくりの協議も並行して行う。

有田市の中学校部活動の今後を見据えた取組

R6

1部活以上の休日の 部活動地域移行

- ・部活動指導員を導入している部活動から
- ・アンケートから
- ・学校が希望する部活から



R7

新たな部活動の地域移行+個人負担の開始

- ・R6実施部活の継続
- ・受益者負担の取り組み
- ・新たな実施部活の参入



R8以降

運営主体を含め活動維持が可能な体制整備

- ・R7からの継続
- ・運営主体の切り替え
- ・地域企業との本格的な連携
- ・大会への参加のあり方の検討